

日本の心理学・教育学における創造性研究の計量書誌学的分析 —1975 年から 2019 年までの書誌情報をもとに—

楠見友輔 (立教大学・日本学術振興会)

キーワード：創造性，計量書誌学的分析，心理学・教育学

問題と目的

創造性は、独創性と有効性を基本的な特徴とし (Runco & Jaeger, 2012), 20 世紀半ばから心理学において本格的に議論されてきた概念である (Guilford, 1950; Stein, 1953)。Ryhammar & Brolin (1999) は, 1980 年代までの国際的な創造性研究が, パーソナリティ研究, 認知研究, 創造性を刺激する方法研究, の 3 点からなされ, 1980 年代以降には個人の能力としてではなく社会文化的な概念として捉えられるようになったことを指摘している。このような創造性研究の発展に対して, 日本では 1990 年代末まで殆ど創造性に関する研究がなされていなかったことが指摘されている (孫・井上, 2003)。本研究では, 20 世紀末以降のわが国における心理学・教育学における創造性研究の展開を計量書誌学的に探る。

方 法

計量書誌学的方法は文献の書誌情報を定量的に分析することで, 特定の研究分野の動向を探る方法である (高橋・成田, 2012)。Hernández-Torrano & Ibrayeva (2020) は, Web of Science に登録されている 1975 年から 2019 年までの国際学会誌に掲載された創造性に関する研究の動向を分析し, 創造性研究は論文数と被引用文献数ともに 2005 年を境に指数関数的に増加していることを示している。論文数の急速な増加は, その研究領域が成熟に至る発展途上にあることを示す (Dabi, et al., 2016)。本研究では, Torrano ら (2020) の研究と比較し, 日本の創造性研究の動向を考察する。

J-STAGE において「論文タイトル OR 抄録 OR キーワード=創造」, 「資料種別=ジャーナル」, 「言語=日本語」, 「査読有無=査読あり」, 「発行年=1975~2019」, 「分野=心理学・教育学」を条件として論文検索し, ヒットした 965 件の論文のタイトル, 著者, 出版年, 雑誌名, 被引用文献データを抽出した。このうち, 人間の認知機能としての創造性とは異なる用法で創造が用いられている論文 (「文化創造」など) や, 研究領域が教育学・心理学と明らかに異なっている論文を除外した。

第一に, 1975 年から 2019 年に出版された創造性に関する論文数と被引用文献数の推移を図示した。第二に, 論文数または被引用文献数が上位 4 位の雑誌 (主要誌) を抽出し, 掲載された論文の

被引用数 (自雑誌/他雑誌), 自己引用数 (論文に含まれる著者による被引用数) を分析した。

結果と考察

対象となった論文は 216 件であり, 57 件に被引用文献データが存在した。雑誌数は 44 種であった。論文数と被引用文献数の推移は Figure 1 の通りである。論文数は 1990 年代末から多くの年で 5 件を超えるようになり, 最大は 2010 年の 20 件であった。被引用文献数は 2000 年代以降に増加が見られ, 最大は 2010 年の 36 件であった。主要 6 誌における論文数, 被引用数は Table 1 の通りである。全雑誌において論文の自己引用や自雑誌における引用が 1/3 以上であることは, 日本における創造性研究が少数の研究者や研究者グループによって推進されていることを示している。このことと, 論文数の漸次的な増加が見られないことから (Figure 1), 日本における創造性研究の発展は, 研究フレーム形成する初期段階にあるといえる (Dabi et al., 2016)。

J-STAGE が日本の学術雑誌を網羅的に登録していないこと, 被引用文献が登録されていない雑誌が存在すること, 近年出版された論文が登録されていないことから, 本結果は国内の創造性研究の傾向を網羅的に示しているわけではない。今後は JSTAGE に登録されていない情報を踏まえた研究や, 共引用, 著者ネットワーク等の分析を通した創造性研究の動向の包括的な検討が求められる。

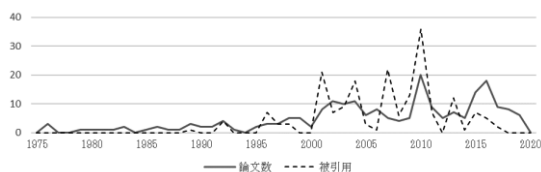


Figure 1 論文数と被引用文献数の推移

Table 1 主要 6 誌における論文数, 被引用数

	論文数	被引用数	自:他	自己引用
『認知科学』	41	113	65:48	45
『美術教育学・美術家教育学会誌』	36	-	-	-
『デザイン学研究』	22	21	16:5	12
『数学教育学研究: 全国数学教育学会誌』	20	-	-	-
『科学教育研究』	3	9	5:4	3
『教育心理学研究』	3	12	4:8	6